

信州中野 小牧ボルダー

2018.5.7 rctK

今年に入ってから、例年以上に長野の実家に帰っている期間が長くなり、クライミングの機会が大幅に減ってしまった。雑用のため帰京した時には、できる限り時間をとって登ろうとは心がけてはいるが、なかなか思うようには登れない状況である。

それでも、雪深い長野の実家周辺では、例年になく今年は雪解けが早く、近場のボルダーもトライ可能となっているのが、唯一ありがたいことと言える。

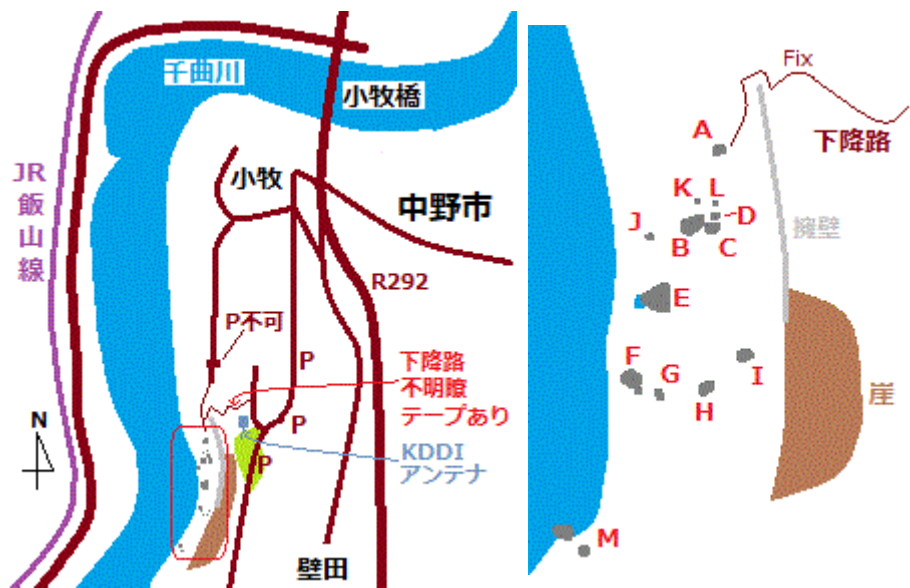
そんな状況の中で、今回の帰省中には、以前からは知ってはいたが、アプローチに難点があったため行くのを躊躇っていた千曲川沿いのボルダーを訪れてみた。

場所は、長野県中野市の小牧地区から細い農道を入って行ったところで、車で農道を入れて終点まで行ってみるが、転回場所のみで駐車スペースがないため、1日目はボルダーの状況を確認しただけで戻ってくる。さて、本格的にトライしに行くとなると、車で入れる状況ではなく、小牧橋辺りの堤防上に置き徒歩で入らざるを得ないが少し遠い。思案の結果、東側の丘上に車道があり、上部から釣師が下っているような道があるのではないかと期待し、後日探しに行ってみる。行ってみるとボルダー側の斜面は崖となっており、降りられそうな踏み跡もなく、下ることが不可能な様子であった。しかし崖の北側の斜面には杉の植林帯が河原付近まで続いており、植林の上部まで農道を行ってみると何とか下れそうであったため、降りて行ってみると、ちょうど良い擁壁の端に降り立つことができた。ボルダーのA岩の直ぐ下流部であったが、この日はアプローチ作りで時間を費やし、目印のテープを付け、一部急なところにフィックスを張って引き上げた。その後、雨天などで増水が予想され暫く行けなかったが、好天を狙って2日ほど半日程度だったがトライしに行ってみた。

このボルダーは実家から近く、半日程度でも十分遊べ、河原で明るく乾きが良く、春先の雪解けも早そうで私的には好条件が揃っている。岩は安山岩でしっかりしており、河原ではあるが、磨かれてつるつるという感じでもなく、フリクションも効き登りやすい。

アクセスについては、長野県の北部中野市と飯山市の境にある小牧橋を目指していく。小牧地区に着いたら、南方向に丘上に登って行く道があるので登って行くと、KDDIの大きなアンテナが立つところに着く。駐車スペースは道路横に何か所かあるが、畑の入り口には駐車厳禁である。

アプローチは、アンテナ方向に農道が入っているので、そこを入りアンテナの先まで行くと、杉林の下降路入口にテープが付いているので、杉林をテープに導かれて下ると千曲川の河原に降り立つことができる。



《課題紹介》

●A 岩

左:上流側 右:山側

エリアの一番下流のボルダーで、
窪みを使って登る課題で易しいが楽しい。



●B 岩・C 岩・D 岩・K 岩・L 岩周辺

上段左:B・C 岩上

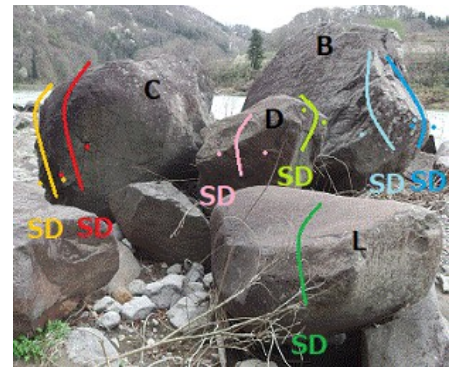
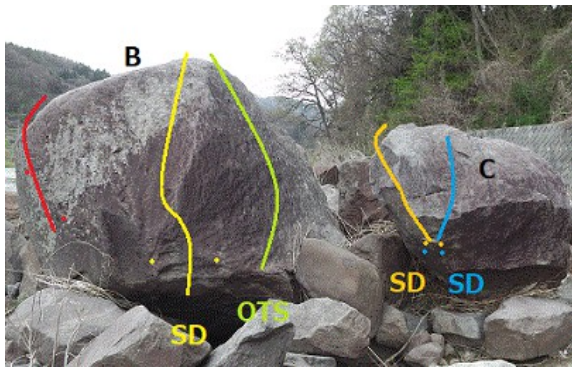
流側

上段右:山側

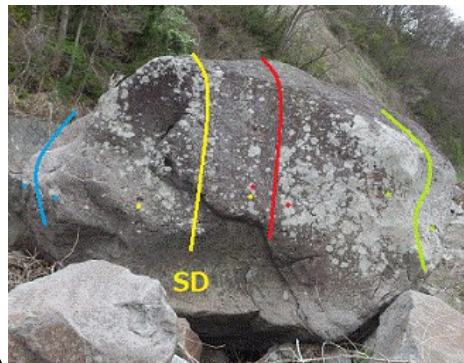
下段左:B 下流側

下段右:B 川側

B 岩はこのエリア
で2番目に大きい
ボルダーで2.5m
程ある。周囲に課
題が設定されており、窪みが
多くムーブ的に面白い。上流
側の黄色ライン、下流側の赤
ライン、川側の黄緑と赤ライン
などが面白い。



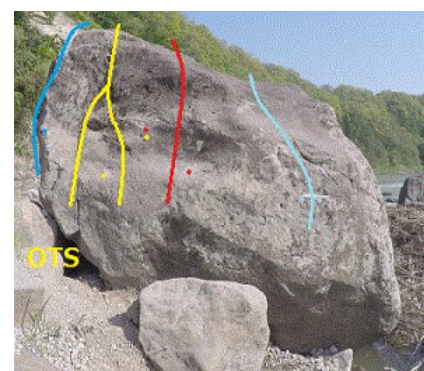
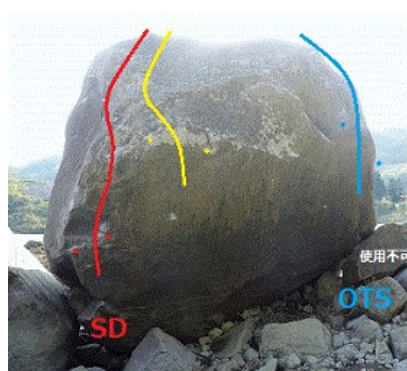
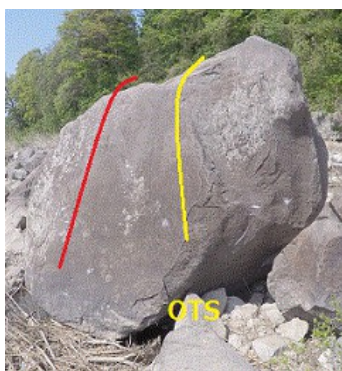
C 岩はB 岩の山側にある岩
で、上流側のオレンジラインと
山側の赤ラインが面白い。



D 岩は小さい岩で2本のSD
課題、KとL 岩はテーブル状の小さな岩で、それぞれ1本ずつのSD 課題、J 岩は川側に1本の
課題がある。

●E 岩

左:上流側 中央:山側 右:下流側



このエリアで一番大きなボルダーで3m程あるが、川側は常時水溜りとなっており、山側は川が

増水すると水没してしまうことがある。

課題としては、山側の赤ライン(課題名:春の夏日)と黄色ライン、下流側の赤ラインなどが面白い。

上流側の赤ラインは、取り付きが水溜りのため、流木を利用して取り付く。

山側の中央はトライしたが未解決である。引きつけて斜めの甘いカンテ状ホールドを取るのだが、痛めている肩には衝撃が加わりきつい。力あるクライマーにはなかなか良い課題だと思う。

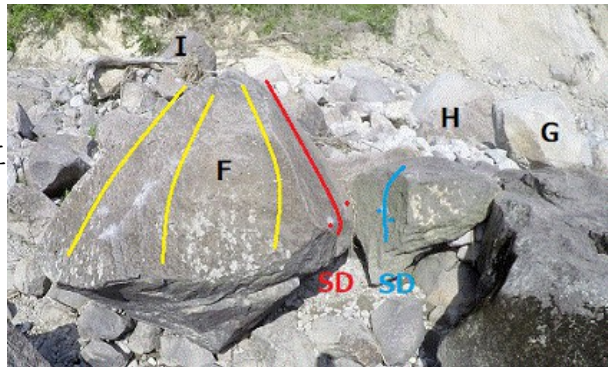
●F岩周辺&M岩

左:F岩川側

右:I岩

F岩は川沿いにある岩で、易しい課題が数本ある。

F岩の山側に小さなボルダーが3つほど並ん



でいるが、SDで限定トライすると結構きつく、未解決の課題となっている。

M岩はF岩よりさらに上流に見えるボルダーで遠くで眺めたのみで未トライ。